



# 九条はらまち

「はらまち九条の会」会報 No.411

2024(令和6)年7月4日(木)発行 アメリカ独立記念日

- 話題の映画『オープンハイマー』は、「原爆の父」とよばれたアメリカの物理学者の、原爆製造の後悔や苦悩を描いています。上映時間3時間ですが、緊張感で見させる凄い映画です。
- アインシュタインも「プルトニウムの性質を変えるより、人間の性質を変える方がむずかしいのです」と心を痛めていました。広島・長崎の惨状を知ったオープンハイマーはその後、水素爆弾の開発に反対し、無実のスパイ容疑で追放されてしまう。国に貢献しても、国に裏切られるものなのですね。

## 2024年総会 その②

「ペシャワールの会」カンパもありがとうございます

# 映画『荒野に希望の灯をともす』 <DVD短縮版45分>

## ～医師・中村哲現地活動35年の軌跡』 上映会

- 総会終了後、「中村哲の映画上映会」が開催されました。
- 映画はアフガニスタンとパキスタンで35年にわたり、病や戦乱、そして干ばつに苦しむ人々に寄り添いながら命を救い、生きる手助けをしてきた中村哲医師のドキュメンタリーです。
- 上映会には一般市民の方も入場され、65名でした。
- DVDは本会で買い取り、勿論上映許可を得ています。
- DVDを借用ご希望の会員さんは事務局員にお申し出ください。
- 上映会終了後「ペシャワールの会」への寄付を訴えたところ、受付のカンパ箱に“33,000円”が寄せられ、早速、翌日「ペシャワールの会」へ送金いたしました。お礼と感謝を申し上げます。



### 《ハガキで寄せられた、映画を見ての感想》

#### 必要なだからやるだけ

□中村哲氏はやはりすごい方だったと改めて思いました。彼の言葉はシンプルで直接私達の心に響きます。悲壮感や気負いなど微塵にも見せず、「必要なだからやるだけ」という感じで事を成しとげていく、淡々と、そんな姿を映画で見せて頂きました。

惜しいです！どうして素晴らしい人ばかり早世してしまうのでしょうか。

悔しいです。世の中、当り前の事が当り前に進められる様にするにはどうしたら良いのでしょうか。

(原町区 濱名弘美さん)

#### だから今

#### 何をするのか

□中村哲『荒野に希望の灯をともす』、素晴らしいと言では言い切れない中村哲氏の生き様を観せていただき、有難う御座います。映像と残された言葉は、心に深く刻まれ、忘れられないものとなりました。パキスタン・アフガニスタンでの35年間の医師として、人として何をすべきかを体現された姿は、「先ず医療よりも食で生きること」の為でした。そして、「人は必ず死ぬ」は、だから今何をするのかは、私の思いとも同じです。

(原町区 小川尚一さん)

□中村哲のすごさを再認識しました。国会に呼ばれ、憲法9条を守って自衛隊の派遣を否定した時、国会議員たちは中村さんを失笑しました。今もペシャワールの会を理解していない自民党国会議員が多く残念です。

こんなにも素晴らしいことを行っても、銃撃されて命を落とすなんて。ノーベル平和賞をあげて、新1万円札の肖像にしてほしかった。

石橋蓮司のナレーションも映画に合っていて、さすがだと思いました。

(原町区 70代 男性)

会員さんより

「憲法記念日のチラシ 良かったよ！」



毎年5月3日憲法記念日に本会では「護憲のチラシ」を市内全新聞に折り込んでいますが、ある会員さんから、「今年のチラシは “STOP! ALL WARS” と、WARに複数の “S” がつけてありましたが、さすがです、納得の表現ですね！本当に世界中で“複数の戦争”が起きていますから、早くSTOPさせなければ。」と好評でした。同じく「良かった」という言葉を数名からいただきました。嬉しいことで元気が出ます。

## 巧妙に狡猾な手法で“改憲”と同じことを

「集団的自衛権行使」「敵基地攻撃能力」「地方自治法改正案」・・・

●改憲に強い意欲を示していた安倍元首相の下で、自民党は「自衛隊の明記」「緊急事態対応」「参院選の合区解消」「教育の充実」の4項目を掲げていました。●しかし改憲は困難と判断したためか、強引に国会の審議も経ずに閣議だけで「集団的自衛権行使」を決定。さらに岸田政権は「敵基地攻撃能力」を持ち日本も他国領土を攻撃できると防衛力も倍増し、「戦える自衛隊」の態勢づくりで、沖縄などはまるで開戦前夜のように報道されています。

●さらに6月には、非常時に国が自治体に対応を指示できるよう「地方自治法改正案」を国会で可決し、「緊急事態対応」を強引に決めてしまい、中央集権がさらに進んで地方自治は名ばかりとなりそうです。「地方自治こそ民主主義の最良の学校」と言われていますが、それを無視する民主主義を破壊する愚策です。

●「憲法改定」以上のことを巧妙に狡猾に平気で行う岸田政権や国の手法に、皆さんはどう思われますか。まさに憲法が空洞化されています。●2022年7月8日の安倍晋三氏の銃撃死から2年ですが、現在の日本経済の不安定はアベノミクスの失敗といわれ、国の根幹の憲法や国会の軽視、また権力におもねて政権や国に忖度する司法や検察の有り様、これも安倍元首相の民主主義を歪めた深い罪で、まさに底なしの負の遺産です。



こんな **本** が今読まれています

『福島第一原発事故の真実』 NHKメルトダウン取材班・講談社

ドキュメント編 ¥850 検証編 ¥1650

原発事故から13年かけて、1500人を取材した記者たちの熱意に圧倒されます。当時の貴重な現場の写真や説明図が豊富で、説得力があります。お薦めです。



『なぜ日本は原発を止められないのか？』 青木美希著・文春新書・¥1100

青木氏の他の著作と同様に、青木氏はこの本を命懸けで書いたのではないかと。大メディアが絶対に書かない、触れない原発のタブーをズバズバと記述しています。

『原爆裁判 アメリカの大罪を裁いた三淵嘉子』 山我 浩著・毎日ワンス・¥1400

NHK連続テレビ小説「虎に翼」のモデル三淵嘉子が、原爆を投下したアメリカの大罪を裁いた歴史的な一大判決。こんなすごい裁判や女性裁判官を初めて知りました。